■はじめに

○創刊の挨拶（国土交通省 道路局 環境安全・防災課長 野田 勝）

皆さんは「生活道路」にどのようなイメージをお持ちですか？子供たちが通学や通園に歩く道。ちょっとした買い物に出歩く道。愛犬を連れて散歩する道。たまたま出会った近所の知り合いとおしゃべりをする道などなど。いろんなイメージがあると思いますが、このような場面で皆さんは本当に安心してご利用頂いているのでしょうか？

残念なデータがあります。

交通事故で亡くなる方のうち、約半数が歩行中、自転車乗用中であり、さらにその約半数が自宅から500m以内の身近な道路での事故によるものです。また、人口あたりの歩行中、自転車乗用中の事故による死者数は、G7（先進7カ国）で最も多くなっています。

生活道路の多くは、歩行者や自転車と自動車とが交錯し、先を急ぐ車にひやひやしながら用心して歩かなければならないということが読み取れる訳です。

さて、そんな生活道路で死傷事故が起きると、「これは大変だ」ということで様々な対策を施すことがよくあります。それはそれで大切なことですが、事故の起きそうなところであらかじめ対策ができれば、その方がずっと賢いのは言うまでもありません。よく言われるように、事故は氷山の一角に過ぎません。一件の事故の裏には百件のヒヤリハットがあるとされています。そのヒヤリハットの多いところであらかじめ対策をする、これこそが現在国土交通省で推進している「生活道路対策エリア」の取組の肝なのです。

ヒヤリハットの多いところをどうやって把握するのか。ここはビッグデータの出番です。現在、多くの車に ETC2.0 という車両の速度や経路のデータを収集できるタイプの ETC が搭載されています。ここから得られるデータを分析すると、速度超過の車が多い区間、急ブレーキの多発箇所など「潜在的な危険箇所」が見えてきます。

とは言え、ビッグデータをどのように分析すればよいのか、危険箇所に応じた対策を施すと効果的なのか、地域の方々への説明はどうすればいいのか、そしてどのような支援メニューがあるのか、疑問は尽きないことでしょう。

そんな疑問にお応えし、少しでも多くの地域で生活道路の交通安全対策に賢く取り組んで頂きたい。そんな思いで今回このメールマガジンを始めることといたしました。これから対策に取り組もうという皆さんはもちろん、すでに取り組んでいらっしゃる皆さんにも役に立つような様々な話題、情報、基礎知識をお伝えしていきたいと思っております。

最後になりましたが、各地域における取組の推進により、生活道路における歩行者・自転車中心の空間づくり、世界一安全な道路交通環境の実現に向け努力して参りますので、ご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

■事例紹介

各地で行われている取組について、ご紹介します。

（可搬型ハンブを用いた実証実験：3件、実証実験の効果検証：1件、各地域における取組の紹介HP：1件）

○神奈川県横浜市緑区中山町地区において可搬型ハンブを用いた実証実験を行います。

生活道路の安全性向上のため、スムーズ横断歩道等の試行的設置による社会実験を行います。

～中山町地区（横浜市緑区）におけるビッグデータを活用した安全対策～

<http://www.mlit.go.jp/road/road/traffic/sesaku/pdf/jirei/kn001.pdf>

※実証実験は終了しています。（平成 30 年 11 月 20 日～12 月 17 日）

○愛知県豊田市和会地区において可搬型ハンブを用いた実証実験を行います。

豊田市和会地区でハンブの実証実験を実施

～「暮らしの道」の安全対策に向けて～

<http://www.mlit.go.jp/road/road/traffic/sesaku/pdf/jirei/ai002.pdf>

※実証実験は終了しています。（平成 30 年 11 月 15 日～12 月 18 日）

○佐賀県基山町において可搬型ハンブを用いた実証実験を行います。

～通学路を含めた生活道路における安全性向上のため、ハンブ設置による社会実験を行います～

http://www.qsr.mlit.go.jp/sakoku/newstopics_files/20181101/prs18110102.pdf

※実証実験は終了しています。（平成 30 年 11 月 7 日～12 月 10 日）

○栃木県宇都宮市峰・陽東地区において実証実験の効果検証を行いました。

生活道路の安全性向上のため、仮設ハンブ等の試行的設置による社会実験を行いました。

～峰・陽東地区（宇都宮市）におけるビッグデータを活用した安全対策～

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/utunomiya_00000272.html

○「生活道路・通学路の交通安全対策」のページを開設しました。

～関東地方整備局 大宮国道事務所～

地域における取組の紹介ページの設置事例を紹介します。

<http://www.ktr.mlit.go.jp/oomiya/02sigoto/kinou/seikatu.htm>

■施策紹介

○生活道路対策エリア

国土交通省では、ETC2.0により収集したビッグデータを活用して、効果的な交通安全対策を実施する取組を推進しています。

これまでに、全国で2割を超える市区町村で取組が行われています。（12月末時点：806エリア（391市区町村））

概略の説明や問合せ窓口等は、下記からご覧頂けます。

（ETC2.0のビッグデータの活用による主な利点）

- ・実際に事故が発生していなくても、速度超過や急ブレーキ等の潜在的な危険箇所が「見える化」される。
- ・日頃、感じている「ヒヤリ・ハット」が客観的データにより裏付けできる。
- ・地域の合意形成に活用できる。
- ・従来の観測手法では困難な任意の期間（過去も含む）、区間のデータの把握ができる。

※ETC2.0を搭載した車両が一定程度以上通行していることが必要です。

～ビッグデータを活用した生活道路の交通安全対策～

<http://www.mlit.go.jp/road/road/traffic/sesaku/pdf/leaflet-c.pdf>

～生活道路対策エリア一覧～

http://www.mlit.go.jp/road/road/traffic/sesaku/pdf/leaflet_2-2-3.pdf

～エリア登録や国からの技術的支援に関する問合せ先～

<http://www.mlit.go.jp/road/road/traffic/sesaku/pdf/contact.pdf>

■生活道路の交通安全対策に関するポータルサイト

国土交通省が進めている生活道路の交通安全対策に関する資料を掲載しています。

(このメールマガジンに掲載する情報は全て掲載されています。)

～生活道路の交通安全対策に関するポータルサイト～

<http://www.mlit.go.jp/road/road/traffic/sesaku/anzen.html>

【北陸情報】

■平成 30 年 12 月末現在 登録状況 62 エリア (27 市町)

<内訳>

新潟県 16 エリア (10 市町)

富山県 12 エリア (5 市町)

石川県 34 エリア (12 市町)

※詳細は、～生活道路対策エリア一覧～をご覧ください。

■生活道路に関する疑問点等お問い合わせは、下記までご連絡下さい。

北陸地方整備局 地域道路課 計画係 [TEL:025-280-8880](tel:025-280-8880) (代)

道路管理課 交通対策係 [TEL:025-280-8880](tel:025-280-8880) (代)

■編集後記

最後までご覧いただきありがとうございます。

生活道路対策エリア登録することにより、エリア内の事業の防災・安全交付金については、特に重点配分され、国費率も 5.5/10 となりますので、各地の生活道路対策に活用して頂ければ幸いです。

このメールマガジンは、今回が創刊号となります。今後、生活道路の交通安全対策に取り組む皆様の情報共有の場として定期的にメールマガジンを発行していきたいと考えていますので、次回もおつきあいを宜しくお願い致します。

また、ご意見、ご要望等ありましたら、お気軽にお寄せ下さい。

編集担当

国土交通省 北陸地方整備局

道路部 地域道路調整官 吉田

連絡先 TEL : 025-280-8880 (代表) (内線 84-4118)